

令和3年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

コロナ禍において常に検討と工夫を重ねながら、わかる授業の実践や学校生活における生徒支援、昨年度中止となった遠足や体育大会の開催など、制限がある中でも多くの教育活動を展開し、重点目標をほぼ達成できた。多様な生徒の個別支援計画や情報共有、学校のユニバーサルデザイン化など、SC・SSWや通級指導教員とも連携し、校内の教員研修を多数開催できた。

学習活動では、タブレットの導入により多くの授業でICTの活用が加速した。互見授業では積極的な参観により効果的な活用事例が共有され、授業改善に活かされた。一方、生徒アンケートでは「疑問があるときは積極的に質問している」が38.1%と低く、質問しやすい授業の雰囲気づくりが今後の課題である。

学校生活では、いのちの大切さとともに交通安全に対する啓発や指導を継続して行い、交通事故0件の目標を達成した。また、生徒の成長段階に応じてSCや保健師による「心と体の健康講座」を年間10回実施した。内容は、自己理解やストレスマネジメント、性教育、飲酒・喫煙と健康等で、生徒の心のケアや自己の健康について学ぶ良い機会となった。

進路支援では、早期から年次やJSTと連携したきめ細かな指導を継続し、卒業生全員が希望の進路目標を達成した。コロナ禍による進路行事の中止や変更には柔軟に対応し、進路意識の高揚を図った。インターンシップでは生徒の希望・適性を十分に把握し、実習先を確保できた。

特別活動では、生徒会主体による企画が活発に行われ、生徒が個々の役割を自覚することで、充実感や自信につながった。図書委員の活動では、生徒参加型の企画を行い、新規の生徒を呼び込むことができた。また、「一人一冊運動」を呼びかけ、貸出冊数を伸ばすことができた。

総合福祉科では、専門技術者の講座により社会福祉への理解を深めたり、介護技術の反復練習や生徒同士の評価により自分の技術を振り返る機会を設けたりした。介護実習では実際に介護現場を体験することで、生徒の介護・福祉に対する意欲関心を高めることができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) わかる授業実践に向け、効果的なICT活用と質問しやすい授業の雰囲気づくりについて検討を深める。
- (2) 様々な機会を通して、交通ルール・マナーを守ること、命の大切さを粘り強く指導していく。
- (3) 些細な変化を見逃さず、生徒が抱える様々な問題の早期発見・対応の支援体制を充実させる。
- (4) 早期から学校全体で進路支援に取り組む。また、就職内定者に対して就業意欲を継続できるよう指導を工夫する。
- (5) 集団活動を苦手とする生徒に対し、年次と連携しながら学校全体で配慮のある支援を行う。
- (6) 生徒目線の企画と生徒の主体的な活動を働きかける。
- (7) 介護技術を高めるために、介護技術公開発表の場を計画し、生徒同士の学び合いを促す。

8 学校アクションプラン

令和3年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-				
重点項目	学習活動			
重点課題	① 学習内容の理解・定着		② 学習意欲の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容について理解・定着の乏しい生徒が見られる。 ・ 学習・授業に対する意欲の乏しい生徒が見られる。 			
達成目標	① 単位修得率 90%以上		② 学習・授業についてのアンケートで「先生の説明はわかりやすい」と回答した生徒の割合 90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット等の効果的な活用等、授業改善に取り組み、よりわかる授業を目指す。 ・ 適切な課題を設定し、確実な提出を促すことで学習内容の定着を図る。 ・ 生徒によっては、通信制課程の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。 ・ 学習・授業についてのアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。また分析結果を個人面接等で活用し、学習への意欲を喚起する。 ・ 進路指導部と連携し、進路目標を意識して学習に取り組むよう促すことで、授業への意欲にもつながるようにする。 ・ 『履修の手引き』や科目登録ガイダンスを効果的に活用することで、卒業後を見通した主体的な科目履修ができるようにする。 			
達成度	① 85.0%(前期)		② 89.3%	
具体的な取組状況	<p><授業改善・教員研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの授業で、タブレットを始めICTを活用し、よりわかる授業に取り組んだ。 ・ 互見授業期間を設定し、お互いに積極的に授業を参観して、よりよい授業改善に努めた。 <p><生徒への働きかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面接週間や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。 ・ 長期休業期間には各教科より課題を設定し、学習の継続を図った。 ・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを通し学力の定着を図った。 ・ 次年度科目登録を通じて進路の見通しを持たせるようにし、学習への意欲喚起を図った。 ・ 欠課が多い生徒には、保護者と連携し早めに注意喚起を図り履修不成立防止を図った。 <p><学習・授業についてのアンケートより抜粋></p> <p>「授業に真面目に取り組んでいる」 95.2%</p> <p>「疑問があるときは積極的に質問している」 38.1%</p>			
評 価	B	目標達成にやや及ばなかった	B	目標達成にやや及ばなかった
学校評議員の意見	<p>単位修得率の向上やわかりやすい授業を目指し、ICTの積極的な活用や互見授業による授業改善への取り組みは評価できる。今後もこの取り組みを継続するとともに、アンケート結果を分析し、授業改善につなげて欲しい。積極的に質問する生徒が少ないが、気軽に質問できる環境作りに努めて欲しい。方策として、チャット機能などICT機器の活用も考えられる。</p>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかる授業のためのより効果的なICT活用について、さらに検討を深めたい。 ・ 気軽に質問できるような環境をさらに整えていきたい。 ・ 欠課が多く未履修になるケースが目立つ。今後とも早期に粘り強く個別指導を行い、未履修の数が減少するようにしたい。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚	② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故が、令和元年度1件、2年度2件発生している。スマホの「ながら運転」など、安全意識に欠ける生徒や事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒が見られる。 生活リズムの乱れから、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見られる。体の不調が心の健康に影響を及ぼすケースもあり、生徒自身が心と体の健康やつながりについて考え、心身の健康保持増進に有効な習慣を身につける必要がある。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数0件	② 生徒向け研修会「心と体の健康講座」実施回数 年10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期交通安全指導を実施し、歩行時、自転車運転時におけるマナー遵守意識を向上させることで事故防止を図る。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 全校集会や年次集会等で、命の大切さを考える機会を持ち、自他の命を尊重する意識・態度を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の健康やつながりについての理解を深め、コロナ禍におけるストレスマネジメントもできるような学びの機会として、生徒向け講座を企画・実施する。 各年次の生徒の実態に即した講座を実施するため、年次担当者と連携し、生徒の実態把握に努め、講座内容・時期を検討する。 ヤングヘルスセミナーやコミュニケーション講座などを通して、生徒がカウンセラーや保健師といった専門家による助言や専門的知識を得られるようにする。
達成度	① 0件 (令和4年1月現在)	② 10回実施 ※予定を含む(令和4年1月現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通安全に対する啓発を行った。 全校生徒対象に交通安全教室、自転車通学生対象に車体検査を2回実施した。 前期8回・後期3回、登校時間帯に校門付近で交通安全指導を実施した。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう、資料「交通事故にあったら」を縮小版カードで配布(スマホ内に保存)した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次生徒の成長段階に応じた内容を検討し、「心と体の健康講座」を実施した。 ◆スクールカウンセラーによるコミュニケーション講座(自己理解、ストレスマネジメント等について)―8回 ◆保健師によるヤングヘルスセミナー(性教育、飲酒・喫煙と健康について)―2回 講座実施後、講座内容についてまとめた掲示物を作成したり、講座の資料を専用ファイルに保存させたりするなど、生徒の振り返りや学びの系統化を支援した。
評 価	A 目標を達成した。	A 目標を達成した。
学校評議員の意見	交通ルールやマナーを守ること、命の大切さについて様々な機会を通して啓発して欲しい。	生徒が抱える問題(ヤングケアラーなど)の早期発見・対応に努め、支援体制の充実を図って欲しい。成長段階や実態に応じた豊富な講座やセミナーの開催は評価できる。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き事故を未然に防止するため、集会やST等の機会を通して、いのちの大切さ、交通ルール・マナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。 「交通事故にあったら」の有効活用。交通事故にあった場合、傷害が軽微であっても必ず相手(氏名、住所、電話番号、車のナンバー)を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が長期化するにつれ、何かと制約の多い環境でストレスを抱えがちな生徒に対する心のケアや、生徒自身がストレスマネジメントについて学ぶ機会の必要性がますます高まると予想される。それらに対応するための工夫が必要である。 自殺抑止の観点からも、学校生活における生徒の些細な変化を見逃すことなく、生徒が抱える様々な問題(ヤングケアラー、虐待など)の早期発見・対応のための体制の充実が求められる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

重点項目	進路支援		
重点課題	適切な進路目標を設定し、進路実現を目指す。		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。 ・ 目標設定に係る情報量の不足が顕著である。 ・ 進路実現に必要な基礎学力や学力向上の取り組みが不足している生徒が見られる。 		
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%	② 1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的な進路意識の向上を目指す。 ・ 年次と連携し、生徒に対し速やかな進路情報の提供を行う。さらに、情報誌を取り寄せる等により進路情報の充実を図り、生徒および職員が進路研究しやすい環境を整備する。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けさせるよう指導する。 ・ 基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。 		
達成度	① 卒業予定者の進路目標達成率 【就職11名】 100% 【進学17名】	② 進学・就職を明確にできる生徒の割合 【1年次】 69% 【2年次】 96% (1月末現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3・4年次対象の進路ガイダンス（6月）への2年次希望生徒の参加、1・2年次対象の進路ガイダンス（1月）への来年度の4年次生の参加など、柔軟な対応を行い、進路意識の高揚を図った。 ・ 各年次に対し進路部長講話の実施、さらに後館2階廊下に進路の掲示板を新設するなど、進路情報について触れる機会を増やした。 ・ インターンシップの実施においては、生徒の希望を調査した上で実習先を選定するなど、生徒にとってより充実した体験となるよう配慮した。 ・ コロナにより先輩講話が中止となったが、希望者のみの参加ではあったが、卒業生を呼んでの臨時の講話を実施することができた。 ・ 3年次の就職希望生徒、および2年次の卒業予定生徒全員がJST面談を行った。 		
評 価	A	目標を達成した。	B 1年次は目標達成できず。
学校評議員の意見	進路目標達成100%は支援の賜物である。今後も支援体制づくりや内定後の就業意欲を継続する指導をお願いしたい。コロナ禍での進路行事への柔軟な対応や情報提供の工夫は評価できる。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望者への支援（応募企業の決定や面接練習等）は、早い時期から年次職員を中心としながら、JSTや校務運営委員と連携して、学校全体で行う必要がある。また内定後についても、就業への意欲を継続できるような指導が必要である。 ・ 進学希望者への個別学習支援等は進路指導部で取りまとめ、早い時期から学校全体で行う必要がある。特に難関校を目指す生徒には、目的を共有する生徒でのチーム体制を組むなどの取り組みが不可欠である。 ・ 特別な支援が必要な生徒への本校での対応等について、企業や上級学校との十分な情報交換など、連携を深める必要がある。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動や学校行事に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると場になじめない生徒や、参加に消極的な生徒が見られる。 ・ 読書量の多い生徒が増加傾向にある一方で、読書への苦手意識をもつ生徒も見られる。読書や学習の質を向上させるための支援が効果的と考えられる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバル)充実度90%以上	② 図書館の活用率向上75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事へ積極的に参加する意欲の向上を図る。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 学校行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な生徒のニーズに応じた図書を準備する。 ・ 図書委員によるイベントを企画するなど、来館者を増やすための取り組みを行う。 ・ 図書の展示方法を工夫し、読書への興味・関心を高める。
達成度	① 93%(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、となみキャンパスフェスティバルの平均)	② 84%(1月14日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会執行部が事前にアンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。また、生徒会執行部主体による行事の企画が活発に行われ、活気のあるチャレンジデー、キャンパスフェスティバルとなった。 ・ 各行事において、生徒が個々の役割を自覚することで、自分の存在を確認でき、充実感や自信につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の年間貸出冊数は333冊と、昨年度と同程度であった。(R1:133、R2:375) ・ 図書委員の活動では、本のポップや掲示物づくり、「図書館ニュース」の編集作業などを行っている。キャンパスフェスティバルでは生徒参加型の「本の森」という企画を行った。これによって、今まで足を運んでいなかった生徒を呼び込むことができた。 ・ 夏休み前には「読書感想文」、冬休み前には「一人一冊運動」を各年次で呼びかけ、貸出冊数を伸ばすことができた。
評 価	A 目標を達成した。	A 目標を達成した。
学校評議員の意見	行事では生徒の主体的な企画・運営が充実感や自信につながっており、評価できる。集団活動が苦手な生徒には成功体験が積めるよう働きかけて欲しい。	読書への関心を高める様々な企画は新たな生徒を呼び込むことにもつながり、評価できる。今後の企画に期待したい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少ない生徒数での学校行事の在り方について見直し、工夫をしながら企画・運営を行う。 ・ 集団活動を苦手とする生徒に対し、年次と連携しながら、配慮のある働きかけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 購入図書選定、館内のディスプレイ、各種イベントでは、今後も生徒目線の企画をし、生徒から生徒へ発信する形で活動できるよう指導していきたい。 ・ 広報の仕方を工夫し、イベントや図書委員の取り組みについて全校生徒への認知度をもっと高める必要がある。 ・ 今後も「一人一冊運動」を継続し、夏休みと冬休みには重点的に読書を啓発するための取り組み行いたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

重点項目	その他:総合福祉科学習指導	
重点課題	専門科目への意欲的な学習	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。 	
達成目標	生徒の自己評価による介護技術の定着度・満足度 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。 関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。 個別の配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 授業のユニバーサルデザインを進める。 	
達成度	89.1% (1年次 91.5% 2年次 90.3% 3年次 85.6%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 最初に介護技術の各手順と根拠をしっかり説明した後、実習に入ることを心がけた。 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 介護技術の繰り返し練習を行った。自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。 介護実習イ（2年次）、介護実習ロ（3年次選択者）を実施した結果、実際に高齢者施設で介護現場を体験することで、生徒の介護・福祉に対する意欲関心が高まった。 	
評 価	A	目標を達成した。
学校評議員の意見	介護実習は有意義な体験であり、適切な感染対策をとりながら継続して欲しい。生徒同士の学び合いも大事である。また、福祉的視点は様々な分野で活かせるため、その育成をお願いする。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 年次が上がるにつれて介護実技の内容が難しくなるので、実技問題の読み込みと応用力を高めることが課題である。 今年度は実施できなかったが、次年度は介護技術公開発表の場を計画し、生徒同士の学び合いを促す。 介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 実技テスト終了後、生徒一人ひとりの評価を伝えて復習し、介護技術が定着するよう指導する。 支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 生徒の意欲を向上させる声かけや対応、評価について共通理解を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)